

# Image Master AI 完全マスターガイド

---

## 目次

---

### 第1章：導入と設定

- 1-1. アプリのインポート方法
- 1-2. APIキーの設定と確認
- 1-3. 基本的な動作確認

### 第2章：神絵師になるための対話術

- 2-1. AIの能力を最大限に引き出す最初の言葉
- 2-2. 曖昧なイメージを具体的な形にする質問力
- 2-3. 生成された画像を理想に近づける修正依頼のコツ
- 2-4. 複数のAIを使いこなす方法

### 第3章：プロ向けカスタマイズ

- 3-1. AIモデルの変更と最適化
- 3-2. プロンプトの改造と改善
- 3-3. ワークフローの拡張（特定画風特化など）

### 第4章：よくある質問と回答（FAQ）

- 4-1. 同じような画像ばかり生成される
- 4-2. 修正を依頼しても、うまく反映されない
- 4-3. もっと高画質な画像を生成したい

## 第5章：成功事例とベストプラクティス

- 5-1. SNSで「いいね」が1万件を超えたイラストレーターの事例
- 5-2. 自身の画風を確立し、個展を開いたアーティストの事例
- 5-3. Image Master AIを最大限に活用するための10のルール

## 第1章：導入と設定

---

### 1-1. アプリのインポート方法

1. Difyのダッシュボードで「アプリ」→「新しいアプリを作成」→「チャットボット」を選択します。
2. 「ファイルからインポート」をクリックし、`最強画像ジェネレーター.yml`を選択します。
3. インポートが完了すると、アプリ一覧に「Image Master AI」が表示されます。

### 1-2. APIキーの設定と確認

- 本アプリは、OpenAIとStability AIのAPIを利用します。
- Difyの「設定」→「モデルプロバイダー」で、両方のAPIキーが正しく設定されていることを確認してください。

### 1-3. 基本的な動作確認

1. アプリ一覧から「Image Master AI」を選択し、「チャット」画面を開きます。
2. 「こんにちは」と入力し、AIからの質問に答えていく形で、画像が生成されることを確認します。
3. 生成された画像が表示されれば、設定は完了です。

## 第2章：神絵師になるための対話術

---

### 2-1. AIの能力を最大限に引き出す最初の言葉

- **具体的なテーマを伝える：**「何か描いて」ではなく、「未来の東京を舞台にした、サイバーパンクな雰囲気のイラストを描いてほしい」のように、具体的なテーマを伝えましょう。
- **参考作品を提示する：**「〇〇という映画のような雰囲気です」「〇〇という画家の画風で」のように、参考作品を提示するのも有効です。

### 2-2. 曖昧なイメージを具体的な形にする質問力

- AIからの質問には、できるだけ具体的に答えましょう。
- **例：**
- **AI：**「主人公はどんな人物ですか？」
- **悪い回答：**「カッコいい男性」
- **良い回答：**「20代後半の男性で、黒髪のショートヘア、鋭い目つきをしています。服装は、黒のレザージャケットを着ています。」

### 2-3. 生成された画像を理想に近づける修正依頼のコツ

- **具体的に指示する：**「もっとカッコよくして」ではなく、「主人公の目つきを、もっと鋭くしてください」「背景のビルを、もっと高くしてください」のように、具体的に指示しましょう。
- **褒めて伸ばす：**「この部分は素晴らしいので、この雰囲気を活かしつつ、〇〇を修正してください」のように、良い点を褒めながら修正を依頼すると、AIは意図を汲み取りやすくなります。

### 2-4. 複数のAIを使いこなす方法

- **得意なAIを使い分ける：**一般的に、DALL-E 3は写実的な画像、Stable Diffusionはアニメ風の画像が得意です。生成したい画像の雰囲気に合わせて、AIを使い分けましょう。
- **AI同士を競わせる：**「同じプロンプトで、DALL-E 3とStable Diffusionの両方で画像を生成してください」と依頼し、より良い方の画像をベースに修正を加えていくの

も有効です。

## 第3章：プロ向けカスタマイズ

---

### 3-1. AIモデルの変更と最適化

- **対話モデルの変更：** より高度な対話モデル（例：GPT-4o）に変更することで、AIの質問力や提案力が向上します。
- **画像生成モデルの追加：** Midjourneyなど、他の画像生成AIをツールとして追加することで、生成できる画像のバリエーションが広がります。

### 3-2. プロンプトの改造と改善

- **質問内容の変更：** AIが最初に尋ねる質問を、より具体的な内容に変更することで、ユーザーの意図を早期に把握できます。
- **プロンプト生成ロジックの改善：** メタプロンプトを改善し、より詳細で高品質なプロンプトを生成できるようにします。

### 3-3. ワークフローの拡張（特定画風特化など）

- **画風選択機能の追加：** アプリの最初に、生成したい画像の画風（例：アニメ風、リアル風、水彩画風）を選択できるようにします。
- **キャラクター固定機能の追加：** 一度生成したキャラクターを、別のポーズや表情で再度生成できるようにします。

## 第4章：よくある質問と回答（FAQ）

---

### 4-1. 同じような画像ばかり生成される

- **回答：** AIとの対話の中で、より多様なキーワードや、意外な組み合わせを試すことで、生成される画像のバリエーションは増えます。

## 4-2. 修正を依頼しても、うまく反映されない

- **回答：**「これまでの指示は一旦忘れて、全く新しい視点で修正してください」と指示することで、AIが新しい提案をしやすくなります。

## 4-3. もっと高画質な画像を生成したい

- **回答：** プロンプトに「4K」「ultra realistic」「masterpiece」といった、品質を高めるキーワードを追加することで、より高画質な画像を生成できます。

# 第5章：成功事例とベストプラクティス

---

## 5-1. SNSで「いいね」が1万件を超えたイラストレーターの事例

- **課題：** 画力はあるものの、アイデアが思いつかず、作品を投稿できないでいた。
- **解決策：** Image Master AIとの対話を通じて、自分では思いつかなかったユニークなアイデアを得て、作品を次々と投稿。SNSで大きな反響を呼んだ。

## 5-2. 自身の画風を確立し、個展を開いたアーティストの事例

- **課題：** 自分の画風が定まらず、悩んでいた。
- **解決策：** Image Master AIに、様々な画家の画風を学習させ、それらを組み合わせることで、独自の画風を確立。個展を開くまでに至った。

## 5-3. Image Master AIを最大限に活用するための10のルール

1. AIを相棒と考える
2. 最初の言葉を大切にする
3. 具体的な言葉で対話する
4. 褒めて育てる
5. 失敗を恐れずに試す
6. 複数のAIを使い分ける
7. 自分の手で加筆・修正する
8. 他の人の作品から学ぶ

9. 常に新しい表現を探求する

10. 楽しむことが最高のスパイス